

早いもので今年ももう3月になりました。この原稿がお手元に届き、読んでいただいたころには幼稚園の卒園式があります。今年は15人の園児たちが卒園していきます。彼らは日本人学校や日本の小学校の1年生として4月から新しい世界へと飛び込んでいきます。新しい旅立ち。良い響きの言葉ですね。

毎年4月になると日本の某放送局の語学講座のテキストがたくさん売れると聞いたことがあります。誰でも新しい学期から新しいことを始めようとするのですね。でも期末にはどうなっていることやら。

少し難しい話ですが、「言葉」と「言語」の意味は微妙に違うそうです。大きな意味では「言葉」は音声現象の意味であり、「言語」は同一共同体の成員に特有の声による記号の体系であり、伝達道具という意味だそうです。まあ、言葉も言語もなくてはならないものですね。手元の「ラールス言語学辞典」には何と900もの主要言語、語派、語族が掲載されています。それほどいろいろな言葉があるということですね。

ところで2007年1月からEUは27カ国になりましたが、その公用語はいくつあるかご存じですか？ちょっと資料を見てみると、23種類の言語が公用語となっています。加盟国よりも少ないのは、国が違っても言語が同じということがあるからです。例えばオーストリアはドイツ語になり、ベルギーはフランス語とオランダ語に入りますよね。ですから公用語の方が少なくなるのは当然の結果なのです。しかし、自国の本当の母語である言語を認められていない国もあります。身近な例ではお隣のルクセンブルグです。この国の本当の言葉はドイツ語のモーゼル・ルクセンブルグ方言なのですが、国としての公用語はフランス語だったそうです（数年前に改革があったと言われてはいますが、まだ確認できていません）。しかし近年、自国の言葉としてのルクセンブルグ方言の教育も始まっていると言われてはいます。現に手元に「ルクセンブルグ語単語帳」のようなものがあります。少し中を覗いてみると

	ルクセンブルグ方言	フランス語	ドイツ語
ルクセンブルグ	Letzebuerg	Luxembourg	Luxenburg
食べる	iessen	manger	essen
私	ech	je	ich
行く	goen	aller	gehen
日	dag	jour	tag

上記のように少しドイツ語とは異なり、公用語とされているフランス語とは全然違う言葉なのです。しかしもっともっとミクロの言語もヨーロッパにはたくさんあります。そのひとつとして、私が住んでいるMonsの方言を紹介します。

	Mons 方言	フランス語
私	ej	je
新聞	babiard	journal
馬	K'vau	cheval
鳩	coulon	pigeon
はい（返事）	ouais	oui

今ではお年寄りしかこのような言葉を使いませんが、最後のOuaisだけは若い人たちも使っているようです。

さて日本語の話もしましょう。私の出身地は大阪です。今はお笑いタレントたちの影響で東京や他の地方に行っても、大阪弁を理解する人が増えてきていますが、以前はそうではありませんでした。また、大阪の古い言葉は大阪の若い人たちにも通じなくなりつつあります。上方落語の至宝で人間国宝の桂米朝師も「落語をはじめるマクラの部分で古い大阪弁を説明してから始めないと、言葉の訳が分からなくなり、笑えない人が増えてしまう」と話していたのを記憶しています。

ここで大阪弁の紹介を始める前に、少し大阪の表記について書いてみます。

大阪の古名は「浪速」「浪華」「難波」と書かれ、「なにわ」と発音されていました。その後明応7年(1498年)に蓮如上人の御文章の中に「当国摂津東成の群生玉の庄内大坂という所在は……」と生玉の庄内に大坂又は小坂(どちらも発音はオサカ)に石山本願寺があると書き残されています。この時代には大阪でも小坂でも表記には問題がなかったのですが、大坂に統一したのは大きな物や派手好きの豊臣秀吉が大坂城を築城したときからだそうです。その後「大阪」という表記になっていっ

たのですが、この統一も時間をかけてなされたようです。文化5年(1808年)に書かれた「摂陽落穂集」には「或人のいはく、大坂と書くに、坂の字を用ゆること心得あるべし。坂の字は土偏に反るといふ。土にかへるとあるゆへ忌みきらひ、阜(コザト)偏に書くべきなり」と記されています。つまり文化ころから始まり、明治10年ころに至って大阪に統一されたようです。

「これぞ大阪弁という言葉は何ですか？」と聞かれると、私は必ず「ケツタイナ」と「エゲツナイ」と答えています。「ケツタイ」は「変な、妙な、変てこな、おかしな、奇態な、嫌な、不思議な」という意味があります。「希代な」から転じたと書いている辞典もありますが、「近松語彙」には「易をたてて卦に現れたことから転じて縁起、気持ちなども表わす」とも記されています。少し例をあげてこの言葉を説明しますと、

1. ケツタイなやっちゃなア 得体のしれない奴、変な奴
2. ケツタイな服着てんやなア 変な服、おかしな格好の服を着ているね
3. ケツタイな顔してどうしたんや 変てこな顔、常と違った顔してどうしたの
4. ケツタイな具合やった どうもおかしな具合だった
5. どうもケツタイな具合や 体の調子が悪い などという意味
6. ケツタイな絵やなア 上手か下手かまるっきり得体のしれない変な絵だ
7. ケツタイな人 (女性言葉として) 常識を逸した男、いやらしい人 などという意味

どうですか、標準語にし難いケツタイな言葉でしょ。

もう一つの「エゲツナイ」は「濃厚な、辛辣な、酷烈不快な場合」などに使います。この「エゲツナイ」の「ナイ」は無いという意味ではなく、甚だしいという意味です。これも例をあげますと、

1. あいつエゲツナイやっちゃ 物汚い人間性の人、貪欲な人
2. こんなエゲツナイもん、食われへん 脂濃いばかりで、まずい料理は食べられない
3. そんなエゲツナイこと、人前で言うのやない
そんな低劣な話など人前で話さない
4. そないにエゲツノオ言わんかてええやないか
そんなにこっぴどく、づけづけと言わなくてもよいのに

という風になります。

なんか今回はヨーロッパの言葉から大阪弁まで取り留めもなくかいてしまいました。こんな時私は「今回の原稿、ワヤヤ」と言ってしまう。「ワヤ」も大阪弁で「ダメ、失敗、無謀、無茶苦茶」というような意味で「さっぱりワヤヤ」とは「全然だめだった、成っていない」という言葉です。

最後に大阪弁しゃれ言葉を。

「今回の原稿、黒犬のお尻や！」 「尾も白くない ⇒ おもしろくない」

お粗末でした。

《 他のテーマでつづく 》